

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500328		
法人名	株式会社笑顔いちばん		
事業所名	グループホーム笑顔いちばん各務原		
所在地	岐阜県各務原市蘇原新栄町3丁目6番		
自己評価作成日	令和3年1月30日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190500328-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを尊重し、笑顔で生活が出来る様、職員と利用者の関係作り、ご家族との関係作り、当たり前前を当たり前前のできる環境作りを心掛けています。平行棒や、リラクゼーション器具を取り入れ気軽に身体のケアをし、健康寿命を延ばすこと、協力医療機関と都度相談等を行い、身体的な不安の解消をすることでいつまでも元気で、自分らしく生活が出来るよう支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内の暮らしに便利な住宅街の中にある。玄関には、家族や訪問者と円滑にコミュニケーションが図れるよう、職員の名前と顔写真を掲示している。広く明るい共用スペースには、利用者の日常生活の維持や機能訓練の為に器具や平行棒が設置され、職員が見守るの中で、それぞれが自分のペースで取り組んでいる。「笑顔づくりは街づくり」の理念の下、職員は、利用者の思いや意向の把握に努めながら、一人ひとりの個性とその人らしい生き方を尊重したサービスの提供に努めている。また、協力医・訪問看護と連携しながら勉強会を重ね、充実した看取り体制の構築にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社理念の「笑顔づくりは街づくり」を意識して日々入居者様から笑顔が頂ける様実践しています。	玄関と職員休憩室に理念を掲示している。職員は、社員研修や勉強会で社訓と理念を確認している。また、日常のケアの中でも理念を振り返りながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域参加ができない状況でしたが、散歩等で地域の方に挨拶をしたりと、地域とのつながりを絶たない様努めました。	地域行事への参加について、自治会と話し合っていたが、新型コロナ感染拡大防止の為、様々な行事が中止となった。幼稚園児との花見や高校生の実習受け入れ、ボランティアの受け入れ等も中止しているが、散歩時には、住民と挨拶を交わし、収束後には、地域行事への参加など再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様からの相談や施設見学などに来られた方には認知症の人への理解や、グループホームについての説明をさせて頂き、認知症の方への理解を深めて頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加して頂いた方に施設の取り組み等を報告をし、アドバイスを頂いてサービスの向上に活かすように継続して努めています。	自治会長、民生委員、家族、行政等の参加で、年3回運営推進会議を開催していたが、今年度最後の1回は行政の指導で書面会議となっている。会議で出た意見は、職員で話し合いながら日頃のケアに取り入れるなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の担当者と連絡を取ったり、運営推進会議に参加して頂いたり、協力関係を築くよう努めています。	行政とは運営推進会議で意見交換したり、介護保険の改正等について、電話で相談している。また、コロナ禍であっても、工夫をしながら、より良い支援に向けての対策や方法を相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルに基づき勉強会を3か月に一度実施しています。身体拘束になりうることも日々の中で共有したりと利用者の尊厳を害さないケアに努めています。	3ヶ月毎に勉強会を開催し、利用者の権利擁護やスピーチロック等について学んでいる。事例検討会でもケアを振り返り、身体拘束をしないケアの実践につなげている。現在、身体拘束等検討委員会について、委員の構成及び情報共有の仕方を工夫する方向で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体観察を行い、変化があれば職員間で報告し合っています。報告を受け、確認を行い、虐待への防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者が権利擁護研修に行き施設内での勉強会を実施しています。事例等で検討をしながら必要性を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族様に説明し、確認しながら契約を行っています。また加算等で料金等が変更になった場合や契約の変更があった場合は再度ご家族に説明を行い、同意をとっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見をお聞きし、意見をまとめ、反映し、取り組んでいます。変更した点などは運営推進会議や書面での通達などでご家族に報告して運営に反映しています。	家族アンケートを年1回行い、3ヶ月毎に電話で近況報告をし、意見や意向を確認している。意見箱も設置している。利用者の写真と担当者のコメントを記載した便りも毎月発行している。家族との面会は、感染予防の為、ビデオ通話を活用して、玄関のガラス越しに利用者とお話せるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月定期的に行い、運営状況や、職員の意見や提案を聞き取り、反映しています。必要時はご家族様へ連絡を行い、確認、同意を頂いています。	ユニット会議と全体会議を、それぞれ月1回実施している。管理者も現場に入り、日々のケアの中で意見を聞き、コロナ禍でのレクリエーションのあり方について話し合いながら、意見を反映させて支援に繋げている。職員の個別面談も年1回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、定期的に面談を行い個人の努力の把握に努めています。また職員に業務分担を行い、各自が向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に行い、職員がスキルアップが出来るように努めています。研修資料等を休憩室へ掲示したりし、少しでも興味を持っていただく様努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策を行い、同業者と話が出来る機会を作り、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、本人様、ご家族様への聞き取りを行い、本人様が安心して過ごせる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、聞き取りを行っています。入居後も逐一ご家族様への報告、不安に対するケアを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様へ支援の説明を行っています。職員と話しながら支援方法を確立しています。職員からの聞き取り等も行い、ご家族様へ報告をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に役割を持って頂き、一日の中で少しでも家事に参加できる取り組み、声掛けを行っています。他者との会話ができるよう、職員が間に入って繋がれる様支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に通信で現在の状況を把握して頂けるように努めています。電話等で利用者の様子を報告しご家族様の話しも聴いて支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との時間を大切に頂ける様、リモートで面会できる様支援しています。	今までは、人や場との馴染みの関係継続を支援し、家族との外食や一時外泊も行ってた。コロナ禍の今は、家族が利用者の排泄用品等を届ける際に、玄関にてリモート面会を実施する等、工夫しながら支援をしている。収束後には、今まで通りの支援再開を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別支援、集団支援等、その方に合った方法で支援をしています。入居者様同士で話等ができる様、スタッフが間に入り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があったときは誠意で応えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員本位にならないよう努めています。普段の行動や、しぐさからご本人様の状態の把握に努め、できる事を支援しています。	職員は担当制とし、日々のケアの中でコミュニケーションを図りながら、利用者の思いや意向を把握している。困難な場合は、家族や関わりのある人から話を聞き、表情や仕草、行動から把握するように努めている。新たに知り得た情報は、申し送りノートやユニット会議で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に聞き取りを行った後も現場の職員、ケアマネージャーを中心にご家族様から聞き取りを入居後も継続して行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通しての状態、不安時の状態など、対応方法を含め、日々の申し送りや、ミーティングで共有、実践を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づき 現在の支援方法について検討し、ご家族様から意向などを確認してミーティングで話し合い、計画書を作成しています。	毎月モニタリングを行い、アセスメントは半年に1回行っている。本人と家族の意向を確認し、それらを基に関係者で話し合い、介護計画を作成している。計画作成後には本人・家族の同意を得ている。また、状態に変化があった場合は、柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議を開催し個別支援の情報共有や計画の見直しをしています。職員の気づき、違和感等を大切に話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の立場に立ち、ご家族様と相談してニーズに対応しています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	リモート面会を活用し、利用者様が暮らしの中で孤立をしない様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師よりご家族様に説明をして頂いたり、ご家族の要望を医師に相談したりと適切に医療を受けられる様努めています。	契約時に、かかりつけ医について説明し、家族・利用者が選択している。従前のかかりつけ医を継続する利用者もある。協力医の往診を受けながら、訪問看護とも連携し、受診結果や情報を家族と共有している。専門医への受診は家族が同行するが、緊急時は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、看護師（訪看）と情報を共有し、往診時に擦りあわせ、職員も一緒にご本人様と受診する様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはフェイスシート、アセスメントシートを提出し、情報の提供やケースワーカーとの情報共有・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における（看取り）指針に基づき契約時に説明し、同意を得たうえで支援を行う体制を取っています。その際も医師からも説明をして頂き、同意を取っています。利用者・家族・医療・施設というチームでケアに努めています。	重度化した場合については、契約時に方針を説明し同意を得ている。まだ、重度化の事例は少ないが、勉強会を実施し、看取りに対応できるよう体制を整えている。家族を含めて関係者と話し合いを重ねながら、支援に取り組んでいる。	社会の変化に伴い、看取りを希望するケースが増え、それに対応できるよう勉強会を重ね、体制の整備に努めている。今後は、より一層研修に取り組み、デスクカンファレンスを含めた、充実した支援体制の構築に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生に備えてマニュアルを作成し定期的に訓練を実施しています。事例検討を行い、適切に対応できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や自動通報装置等の使い方の確認を定期的な訓練で行っています。	年に2回火災訓練を実施している。夜間対応については話し合いを重ねている。火災時には近隣のスタッフが駆けつけるようになっており、勉強会をしている。土砂災害、洪水危険区域ではないが、万が一の災害に備え、備蓄品の検討を行っている。	近年、洪水や地震等の災害が増えている。災害下でインフラが途絶えることも想定して 地域との協力体制を整えると共に、備蓄食料の検討を進め、夜間対応を含めた訓練実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いけない、待って等という言葉に注意し、ご本人様の立場に立って言葉かけを行っています。トイレや入浴等でも配慮を出来る様努めています。	職員は、人権擁護についての勉強会を重ね、利用者一人ひとりの人権を損なわない支援に努めている。ケアの際には、個々の性格や状態に配慮し、声の大きさや表現方法も考慮しながら支援している。排泄時や入浴時の介助の際には、特に、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、声かけを行っています。ご本人様が行えない場合は選択して頂いたり、ご家族様を含めて考えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様を第一に考えて行動する様努めています。職員の業務は連携して後で行えるものは後回しにして、本人様の行動第一に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択や、整容等、ご本人様にお聞きしながら行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好み等をお聴きし、食事メニューに反映させています。弁当を取ったりと日常と違う環境を提供できる様努めています。入居者様を中心に役割を持って頂き、準備や片づけ等できるように支援しています。	朝夕の二食は手作りで、昼食は配食サービスを利用している。利用者の状態に合った食事形態、減塩やその他の制限にも配慮し、提供している。また、食前には嚥下体操を行い、安心・安全に繋げ、節分には、嚥下し易いカステラの恵方ロールを提供するなど、食の楽しみを広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事形態、制限、食事の種類等、職員で共有、実践を行っています。安全に食事が出来る様に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、残存能力を生かし、口腔ケアに取り組んでいます。口腔ケアが困難な方にはスタッフが支援し、口腔衛生を保てる様支援しています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、状況に応じて声掛けや、自立の支援に努めています。おむつ等極力使用しないように努めています。	トイレでの排泄や排泄の自立に向けて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。また、便秘予防の体操や看護師によるマッサージ等で、自然排便を促している。夜間は安全面に配慮し、ポータブルトイレを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談をしながら薬を服用し、排便がスムーズにできるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意向を聞き、入浴日を決定しています。可能な限り利用者の意向を聞き、入浴形態も考慮しながら支援に努めています。	週2回の入浴を基本に、ゆっくり入浴できるよう支援し清潔保持に努めている。利用者の気分や体調によっては、曜日や時間を変更して対応している。機械浴の設備があり、個浴が困難な利用者も、ゆっくりと湯船につかって入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然に睡眠がとれる様支援しています。室内の温度調整・湿度等毎回意識して行い、快適に睡眠がとれるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と相談し、症状の変化には十分確認するように努めています。服薬情報に確認し薬の副作用、用法容量の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に役割を持って頂き、毎日取り組んで頂いています。施設内でイベントを行い、気分転換できる様努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩に出掛けています。	新型コロナが流行する前は、買い物や個別のドライブ、家族同伴の外出などを行っていた。現在は感染予防のため、体調や天候を考慮したうえで、事業所周辺を散歩するに留めている。収束後には、外出支援の再開を目指している。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設が金銭(預り金)に関しては管理しています。必要に応じて支払いは入居者様にて行ってもらうように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があるときには電話を掛けたり取り次いだりしています。手紙を出したいという時も便箋等を用意し支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾りつけをしたり、毎月入居者様に手伝ってカレンダー作り等を行っています。整頓をして居心地よく過ごして頂く、危険がないよう、工夫をしています。	共用スペースは広く、整理整頓が行き届いた清潔な空間である。また、窓際には機能訓練のための機器や設備も整えられている。複数の加湿器を設置し、定期的に換気も行っている。壁には利用者の手作り作品が掲示されている。利用者はゆったりしたソファや椅子など、好きな場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様やご家族の要望に沿って環境作りを行っています。ベットや家具等の配置も趣向に合わせています。入居者様がどこでも穏やかに過ごせる環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様・家族と話し合いながら居室作りを行っています。ご自宅で使用していた家具や備品を持ってきていただき、落ち着いて過ごして頂けるよう努めています。	居室にはエアコンとベッドが備え付けられており、利用者は好みの家具や小物を持ち込むことができる。清潔と安全を考慮したうえで、本人のこだわりや気持ちが満たされるよう、居心地のいい部屋になるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を活かし、ADLの維持・低下防止に努めています。できることは行って頂き、自立支援に基づいた支援に努めています。		